

殺菌剤耐性ブドウべと病菌の発生について

平成23年度、岡山県の南部地帯のブドウ露地栽培圃場のべと病菌を10月にサンプリングし、病原菌の変異について遺伝子検定を行った結果、ブドウべと病に登録のある殺菌剤〔アゾキシストロビン剤（アミスター）、クレソキシムメチル剤（ストロビー）〕に対して感受性が低下した耐性菌と同じタイプの変異菌が本県の一部で確認されました。なお、確認された菌については遺伝子検定されたのみで、薬剤感受性低下の程度は確認していません。

（1）殺菌剤耐性菌の発生とその特徴

- ・岡山県内の南部地帯の10圃場（4市町）から採取した発病葉50サンプルを用いて遺伝子検定を行った結果、38サンプルで変異菌が確認された。
- ・変異菌は平成21年に山梨県で確認されたものと同じタイプで、感受性菌と比較して遺伝子のアミノ酸配列が1か所異なり、殺菌剤に対する感受性が低下している可能性が高いと考えられる。
- ・他県の事例から薬剤耐性の発達を助長する要因として、同系統の殺菌剤の連用が考えられる。

（2）防除上の参考事項

- ・昨年、ストロビルリン系殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤）を使用したにもかかわらず、べと病の発生が多かった圃場では、ストロビルリン系殺菌剤の使用は1作期1回を上限とし、他系統の殺菌剤とできるだけ組合わせて使用する。
- ・べと病菌は被害葉で越冬し、翌年5月以降、降雨時に葉裏の気孔から侵入して5月下旬頃から葉に発病することから、前年の被害葉は圃場外に持ち出して処分し、伝染源の除去に努める。

なお、農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。